

地域が学力向上を後押し

子どもたちの学力アップで成果を上げ、注目を集めている取り組みがある。群馬県高崎市教委が平成26年から市内全小・中学校（小58校、中25校）でスタートさせ、本年度で7年目を迎えた「地域運営委員会による学習会（学力アップ大作戦）」だ。学力向上は生徒指導と合わせ、同市の重点施策の一つ。勉強ができるという自信が付くといわれる。学ぶことが好きな子どもたちが増え、自己肯定感が向上していることも成果の一つになっている。

群馬・高崎市教委の事業7年目

ボランティアが学習をサポート

「地域運営委員会による学習会（学力アップ大作戦）」。同市では「学力アップ推進事業」と呼び、地域の人たちによる地域運営委員会の組織が中心となり、子どもたちの学びを支えている。全国的にも数少ない取り組みだという。

各学校では、「放課後子ども教室」「寺子屋」など

地域運営委員会 放課後、土日に学習会



「Study Planets」のプリントを使用し、熱心に学習に取り組んでいる生徒たち

し、学校や地域の実態に応じて企画運営をしているところが多い」と話す。

数学嫌い克服図り

の名称を付け、教室などでのサポートに徹している。使用し、放課後や土・日（祝日）に週1〜3回程度実施。基本的には教員の関わりはなく、管理職が環境づくりやボランティアへのお礼な活動が休みの日などを活用

「学力アップ推進事業」を始めたのは、子どもたちの実態を踏まえてのこと。中学校に関しては部活動高校校長時代の経験を踏まえ、飯野貞幸教育長が感じていたのは「高校3年生の

プリント学習システムを活用

一人一人に合った教材提供

進路検討会でよく課題に挙がっていたのが数学の学力だった」と話す。原因を探ると、中学校時代には既に数学嫌いになっていた生徒たちが多かった。

そこで「苦手意識のある数学、それ以前の算数の扱いを何とかしようと考えた」と話す。それが大きなきっかけだった。

同市は中核都市だが、地域が広く過疎的な所もある。「学力アップ推進事業」の人材は、地域で見つけることになっているが難しい時もある。その場合は、市教委が人材バンクの役割を果たし、定期的に行っている研修などにも支援・協力

「教えること」にこだわりを持ち、「自らも学ぶんだ！」という意識で参考書を購入する人もいる。「地域で子どもを育てる」という文化が確実に根付いている。

自学自習に役立てる

使用している教材の存在も大きかった。採用したのは次世代教育推進機構が開発した「Study Planets」（プリント学習システム）。算数・数学を中心に、国語・社会・理科・英語まで、約3万枚の単元プリントがある。

学習履歴を専用サーバー上で一括管理。一人一人の学習状況に応じてプリント



ボランティアの人が生徒たちに英語を教えている学校もある

全国学力調査で成果

ジュニア数学五輪に挑戦する生徒増える

算数・数学嫌いを減らすと開始した「学力アップ

に限らず、さまざまな教科の教材を扱っている。保護者や地域の人、大学生など、多くのボランティアがいる。悩みの多くは、「〇付けはできるが、どうしてその答えが×になるのか解説できないところだった」と語る飯野教育長。

中学校校長の経験がある橋爪学校教育課長は、「プリントの解答・解説が充実しており、その課題解決にもつながった。また、子ども自身で解き進める力を培うことができる点も後押しした。現在は算数・数学授業理解を深めたり自学自習に役立てたりしている。小学校に関しては問題数が多く、子どもたちが飽きやすいという。

生徒は自らの弱点を克服するために教材を活用し、授業理解を深めたり自学自習に役立てたりしている。小学校に関しては問題数が多く、子どもたちが飽きやすいという。

推進事業」。文科省が毎年実施している「全国学力・学習状況調査」などで成果を上げている他、9年目となる（公財）数学オリンピック財団が行っている「日本ジュニア数学オリンピック」にチャレンジする生徒たちの数が増えていることからも、学校で学ぶ内容から離れ、「数学の楽しさを知りたい!」という学びと向き合おうとする子どもたちの意欲も確実に高まってきている。

学校教育課 027・321・1293